

技術士C P D認定の活用を

(公社)日本技術士会 中国本部長 福田 直三



中国地方の建設業の業

界新聞として「中建日報」が本年で創刊70周年を迎えられたことに敬意を表しますとともに、お祝いを申し上げます。ま

た、本年7月に60周年を迎えます日本技術士会(以下、当会)中国本部や県支部の活動に関する記事も多く掲載いただいていますことにお礼を申し上げます。

さて、技術士の資格は21の科学技術分野にわたります。もともと終身資格ですが、国際的なプロフェッショナルエンジニア

ア(P E)の資格との同

等性が必要とされ、その一つとして資格更新制度への対応があります。その前段階として技術士の継続研鑽による資質向上(C P D)活動を証明する「技術士C P D認定」

の制度が2021年9月7日より開始されました。現在では農林水産省から評価をいただいでい

ます。なお、独立開業や企業退職後の技術士C P D認定者は、継続研鑽による資質向上を現役技術士と同様に取り組んでいる証明であり、今後この資格活用が期待されます。また、技術士二次合格者やJ A B E E課程修了者へ初期能力開発(I P D)の制度化が現在進められており、技術士C P Dとの切れ目のない人材育成・資質能力向上をメドとした新・技術士制度が展開されています。

一方、地球環境問題や防災・減災・国土強靱化など高度化・多様化する

社会問題に対して、各分野の「専門知」に加え「総合知」としての取り組みが必要とされています。日本技術士会は21部門の「専門知」を融合させるプラットフォームの役割の発揮が求められて

います。そのような視点で当会中国本部は技術士の社会貢献の機会を提供する所存です。今後とも、貴紙の目刊建設専門紙としての役割への期待とご発展を祈念申し上げます。